



# Red Hat Developer サブスクリプション (チーム用)

信頼性の高い革新的な共通プラットフォーム上でアプリケーションを開発、テスト、デプロイ。

共通のプラットフォームを開発、テスト、本番環境に採用することで、新しいアプリケーションの稼働開始までの時間を最適化し、稼働時の非互換性や問題発生のリスクを低減。

**Red Hat Developer プログラム**は、問題を解決し、仲間とつながり、最新情報について知り、プロジェクトを前進させるためのツール、テクノロジー、ビルダーのコミュニティを提供します。

**Red Hat Enterprise Linux for Business Developers**では、セルフサービスの Red Hat Enterprise Linux を組織内での開発に無料で使用できます。

**Red Hat Developer サブスクリプション (チーム用)**には、Red Hat Developer の e ブック、チートシート、その他の有用なコンテンツへのアクセスが含まれています。

詳細はこちら：  
[developers.redhat.com](http://developers.redhat.com)

## 一貫した環境によりアプリケーションの開発、テスト、デプロイを単純化

多くの組織はオンサイト、クラウド、エッジ・インフラストラクチャを組み合わせてアプリケーションをデプロイしているため、IT 環境は複雑化する一方です。そうした複雑さに加え、多くの企業はコスト削減のために、本番環境とは異なる環境でアプリケーションを開発およびテストしています。しかし、アプリケーションのテストと開発を異なる環境で行うと、本番環境で問題が発生する可能性があります。さらに、開発者が生産性を存分に発揮するために必要なツール、リソース、サポートを得られていない場合もあります。

一貫性のある開発環境と本番環境をデプロイすることで、組織はこうした課題を克服することができます。Red Hat では、一貫した環境の構築をより効率的に行えるようにするために、開発用のサブスクリプションを提供しています。Red Hat® Developer サブスクリプション (チーム用) と Red Hat Enterprise Linux® for Business Developers により、対象となる企業開発者は追加費用なしで Red Hat Enterprise Linux を利用できます。これにより、プロダクション・ワークロード用に使用されるのと同じ先進的で信頼性の高いプラットフォーム上でアプリケーションを構築し、テストすることができます。

## Red Hat Developer サブスクリプション (チーム用)

Red Hat Developer サブスクリプション (チーム用) により、対象となる Red Hat のお客様は、特定の開発ユースケースで Red Hat Enterprise Linux を追加コストなしで使用できるようになります。

Red Hat Developer サブスクリプション (チーム用) には以下が含まれます。

- ▶ 開発作業向けの Red Hat Enterprise Linux へのアクセス
- ▶ すべての物理または仮想開発者ノードを対象とした、単一の組織用サブスクリプション
- ▶ 開発者向けのセルフサポート・リソース ([Red Hat カスタマーポータル](#)や [Red Hat ナレッジベース](#)へのアクセスを含む) および有償のサポートアドオンの利用
- ▶ 開発システムの継続的なセキュリティアップデート、パッチ、修復ツール
- ▶ 主要な政府規格、商業規格、セキュリティ規格への準拠
- ▶ AI を活用した管理および高度なセキュリティ機能を提供する [Red Hat Lightspeed](#) を含む、Red Hat Enterprise Linux 管理ツール群
- ▶ Red Hat Cloud Access による物理、仮想、クラウド環境間でのサブスクリプションの可搬性

## Red Hat Enterprise Linux for Business Developers

Red Hat Enterprise Linux for Business Developers は、Red Hat Developer サブスクリプション (チーム用) と同じアクセス権を提供し、開発者は [登録直後からアクセスして使用できます](#)。Red Hat Developer サブスクリプション (チーム用) との違いは、開発者ノードは単一の組織用サブスクリプションではなく、登録されたユーザーごとに追跡される点です。また、エンタitleメントの数に上限があります。

## Red Hat Developer サブスクリプションの使用

Developer サブスクリプションは、次のような特定の開発ユースケースに使用できます。

- ▶ 品質エンジニア (QE) テスト
- ▶ 本番環境にデプロイする前のパフォーマンス、機能、負荷テスト
- ▶ セキュリティおよびコンプライアンスのテストと認証
- ▶ サードパーティのシステム・インテグレーターまたは有償の開発請負業者によって開発されたアプリケーションの、本番環境へのデプロイ前の内部テストおよび受け入れ
- ▶ 市販のアプリケーションの本番環境へのデプロイ前の内部テストおよび受け入れ
- ▶ 繙続的インテグレーション・インフラストラクチャ

これらのサブスクリプションを利用できるのは、社内の従業員と契約業者のみです。開発作業に自社のシステムを使用する外部のシステム・インテグレーターや開発請負業者向けには、別の[パートナープログラム](#)をご用意しています。



### 開発ユースケースの例

- ▶ チームベースの開発、テスト、統合の取り組み：コーディング、ビルト、テスト、継続的インテグレーションなど、チームベースのソフトウェア開発作業のために、ソフトウェアコンポーネント、コンテナイメージ、またはコンテナイメージとしてパッケージ化された製品を Red Hat Enterprise Linux にデプロイします。
- ▶ デモンストレーション作業：ソフトウェアの機能を説明する目的で、本番環境以外の Red Hat Enterprise Linux 環境にソフトウェアをデプロイします。
- ▶ 社内 SAP アプリケーション開発：組織の SAP アプリケーション開発ラボの開発ノードに Red Hat Enterprise Linux をデプロイします。
- ▶ CentOS Linux 開発環境の移行：CentOS Linux 開発システムを Red Hat Enterprise Linux に変換し、信頼できるサポート付きのオペレーティングシステム (OS) のメリットを得ることにより、開発からプロダクションへの移行を最適化します。

## 開発環境で Red Hat Enterprise Linux を使用するメリット

Red Hat Enterprise Linux により、開発者はより信頼性の高いセキュリティ重視の OS、より大規模なエコシステム、アプリケーションを迅速に構築およびデプロイするための幅広い言語と開発者ツールにアクセスできるようになります。

- ▶ 信頼性の高いセキュリティ重視の OS で開発する：開発環境のメンテナンスではなくコーディングに集中できます。データセンター、クラウド、およびエッジ・インフラストラクチャ全体で、Red Hat Enterprise Linux で作成されたアプリケーションを確実にホストします。
- ▶ 大規模な認定エコシステムから選べる：Red Hat Enterprise Linux で確実に動作する、自社のワークフローに最適なサードパーティ製ツール、製品、サービスを使用します。
- ▶ 豊富な開発ツール、プログラム、リソースへのアクセス：Red Hat Developer プログラムを通じて魅力的な教育コンテンツにアクセスできます。
- ▶ 開発からプロダクションへの移行を容易にする：本番環境への移行や環境へのデプロイ時に起きる変換の問題や非互換性、セキュリティの問題を回避するために、デプロイされる環境と同じ環境でアプリケーションを開発します。
- ▶ 既存のスキルを活用する：CentOS Linux または Red Hat Enterprise Linux の他の派生版を使用している場合、最小限の再トレーニングで同様のユーザー経験が得られます。開発環境と本番環境間の非互換性のリスクを最小限に抑えながら、セキュリティパッチやバグ修正にアクセスできます。
- ▶ プラットフォーム更新時のリスクを軽減する：公開されているアプリケーション互換性ガイドを活用し、OS のアップデートに伴うアプリケーションの問題によるリスクを軽減します。

開発環境と本番環境の両方に Red Hat Enterprise Linux を使用することで、IT 運用チームにとってもメリットがあり、時間が節約され、組織全体の一貫性が向上します。IT 運用チームは以下のことができます。

- ▶ 長期的なライフサイクルサポートと柔軟性を提供する、信頼性の高いセキュリティ重視の OS で IT リスクを低減します。
- ▶ 単一のプロセス、ツール、テクノロジーを使って、IT 管理業務を効率化します。
- ▶ 環境全体での標準化により、IT の複雑さを軽減します。
- ▶ 実績ある効率化されたプロセスとツールで、より簡単に環境を移行します。

## Red Hat Enterprise Linux への移行を単純化する

サブスクリプションを開始したら、Convert2RHEL ツールを使用して開発システムを Red Hat Enterprise Linux に移行できます。このツールは、OS の設定を保持したまま CentOS Linux や Oracle Linux システムから Red Hat Enterprise Linux システムへの変換を自動化<sup>1</sup>、何度も再起動する必要もありません。

システムを Red Hat Enterprise Linux に変換する方法についての詳細は、[こちらをご覧ください](#)。

## 今すぐ始める

一貫したプラットフォームでアプリケーションを開発し、デプロイすることで、本番環境への移行時に問題が発生するリスクを減らすことができます。Red Hat Enterprise Linux は、信頼性の高い開発環境と運用環境を提供し、高品質なアプリケーションをより迅速かつ効率的に開発するための豊富なツールとリソースを提供します。

Red Hat Developer サブスクリプション (チーム用) の利用条件の詳細については、Red Hat アカウントマネージャーに[お問い合わせください](#)。

セルフサービスの [Red Hat Enterprise Linux for Business Developers](#) オファリングの詳細をご覧ください。

---

1 Red Hat 動画、「Convert2RHEL を使用した CentOS Linux からの変換」、YouTube、2021年10月29日。



### Red Hatについて

Red Hat は、[受賞歴のあるサポート](#)、トレーニング、コンサルティング・サービスをお客様に提供し、複数の環境にわたる標準化、クラウドネイティブ・アプリケーションの開発、複雑な環境の統合、自動化、セキュリティ保護、運用管理を支援します。

**アジア太平洋**  
+65 6490 4200  
[apac@redhat.com](mailto:apac@redhat.com)

**オーストラリア**  
1800 733 428

**インド**  
+91 22 3987 8888

**インドネシア**  
001803 440 224

**日本**  
03 4590 7472

**韓国**  
080 708 0880

**マレーシア**  
1800 812 678

**ニュージーランド**  
0800 450 503

**シンガポール**  
800 448 1430

**中国**  
800 810 2100

**香港**  
800 901 222

**台湾**  
0800 666 052

**f** [fb.com/RedHatJapan](https://fb.com/RedHatJapan)  
**x** [twitter.com/RedHatJapan](https://twitter.com/RedHatJapan)  
**in** [linkedin.com/company/red-hat](https://linkedin.com/company/red-hat)

**jp.redhat.com**  
#2796329\_1025

Copyright © 2025 Red Hat, Inc. Red Hat および Red Hat ロゴは、米国およびその他の国における Red Hat, Inc. またはその子会社の商標または登録商標です。Linux® は、米国およびその他の国における Linus Torvalds 氏の登録商標です。